

高齢者が地域の中で主体的に生活できる環境作り

施設のある地域の住民及び地域外の住民、施設利用者等、広範囲から人が集まり、地域住民・利用者による立案のもと、様々な取り組みを行っている。活動は、施設を地域に開放し食堂を開き、施設の畑で採れた野菜や花等を朝市で売買している。認知症の発症者が、ボランティアとしてその活動に関わり、地域住民と交流を深めながら生活意欲の向上を図っている。

香川県

社会福祉法人

守里会

〒761-0111 香川県高松市屋島東町408-1
TEL: 087-844-8500 FAX: 087-844-8530

○法人設立年／平成8年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計：6施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム…2、ショートステイセンター（単独）…1、グループホーム（小規模多機能型居宅介護併設）…1、居宅介護支援事業所…1、デイサービスセンター（小規模多機能型居宅介護併設）…1

○法人の理念・経営方針

処遇の理念「共に生き活かし合う」
すべての人が互いに存在を認め合い、そこから生まれる心のゆとりを大切に、穏やかな瞬間（とき）を過ごせるよう支援することを目標としている。
利用者本意の考え方に立ち、多様なニーズに対応できる支援体制の整備を行い、サービスの量的・質的充実にも努め、利用者が地域社会の中で、可能な限りその人らしい生活を続けていくことができるように支援することを目的に運営している。

○取り組みの法人での位置づけ等

高齢者福祉事業を通して、途絶えない、切れ目のないサービスを地域住民に提供することを目的に実施している

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

デイサービスセンター 偲（とも）

【施設種別及び利用定員】

小規模多機能型居宅介護 24名

デイサービスセンター 15名

○活動内容

◇活動開始年：平成19年4月

◇活動の対象者：

- ・地域住民（児童から高齢者まで）
- ・施設利用者
- ・地域住民以外（高松市在住以外）
- ・障害者およびその家族

◇活動の頻度・時間：

月8～10回 1回あたり5時間程度

活動実施の背景、実施にいたった理由

当該活動を実施している地域住民の高齢化率は高い傾向にあるが、介護保険の対象となる高齢者は少なく元気な地域といえる。ただ、今後も元気で自宅で生活し続けるためには地域の高齢者への理解や協力・日常的な支援が必要不可欠である。また、グループホームを退居せざるを得ない高齢者や施設利用を断られる高齢者等、社会の中での生活が困難と捉えられがちな認知症を発症した高齢者も、住み慣れた地域の中で生活し続けたいと願っている。ましてや誰もが当たり前の様に年を重ねる中、高齢になったから、介護保険の対象者になったから、認知症を発症したからといって一線を退くことを望んでいるとは思えない。

その様な思いを抱くご本人やそのご家族などの多くのお会いから、人が人として老いてゆく過程を生き活きと過ごす事ができる事業、共に生き活かし合う地域での営みを支援する為の事業を考え、当該活動の実施にいたった。

実施内容

- ①当該活動を実施している小規模多機能型施設の運営推進委員を含む地域の住民を中心に、「地域食堂」を開いている。「地域食堂」は週1回、主なメニューは「うどん」である。実施規模は決して大がかりなものとは言えないが、施設が所有している畑で採れた野菜を使った薬味を提供したり、前日の夜から仕込む秘伝のダシ等を目当てに開催日は大勢の地域住民が集まってくれる。子ども連れ、畑帰り、時にはただの様子伺いと、集う目的は様々ではあるが利用者や地域住民の心の交流が世代を超えて深まりつつある。

〔作る人＋食べる人＝集い・交流の場〕

- ②道を挟み施設所有の大きな畑があり、利用者が野菜や花を栽培している。地域住民のサポートの中、毎回豊富な野菜が採れ、上述の食堂のメニューでも食材として活用している。畑をどの様に使うかは利用者と地域住民に委ねられ、職員はサポートに徹する。採れた野菜は、地域食堂で活用する以外にも施設の食材として毎食の食卓に並ぶ。以前は

地域住民の皆様の協力があり立派な野菜が収穫できるのだからと、いくらかでも地域住民に還元しようと採れた野菜は配っていた。その後、運営推進会議の中で、「そんなに畑作りに生き活きと意欲的に取り組んで貰えるなら、更なる意欲向上に繋げる方法を考えてみては」との提案があった。色々と考えた結果、地域に出荷者を募り施設の野菜達と共に売買の場として朝市を開くことになった。開催日は地域食堂に合わせ毎週土曜日とした。近所の方に戴いたとても大きなテントの下で、たくさんの野菜や花々、日によっては手作りのお惣菜等が並び、「これいくら?」「ちょっとまけて」等の活きた会話が飛び交っている。そんな会話を嬉しそうに見守る利用者と地域住民の表情は、とても満ち足りて輝いている。

〔採れた物、作った物－活用する（消費＋売）＝充実度〕

- ③地域食堂や朝市では、たくさんの人たちがボランティアとして関わってくれている。若年性認知症を発症した男性や、アルツハイマー型認知症と診断された女性である。食材を切り、味をつける、さらには朝市で売れた野菜のお釣りの計算と、その役割は留まることを知らず、本人の気持ちがそのまま行動となって反映されている。そんな様子を見ていた地域住民の皆様が心のままに施設に集い、高齢者を、認知症を理解してくれる。

〔集まる＋施設＝相乗効果（施設理解等）〕

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

- ①利用者：本人の意志で畑に行き、水をやり野菜たちの様子を観察し施設に帰って来る。1日の過ごし方を自ら決定し、生活にリズムを持たせることで表情が生き活きとし躍動感のある毎日を送られている。また、今までの生活を継続できる、人や家族・地域住民が自分を理解してくれることによって、不安や焦燥感が消え安定した生活が送れるようになった。
- ②地域：施設を開放することによって、地域住民の皆様が心のままに施設に集い、高齢者を、認知症を理解してくれる。また、近隣の障害者授産施設から朝市への出荷があり、それぞれが互いを必要とし合える地域となりつつある。
- ③職員：介護は手厚く「してあげるもの」だと考

えている職員（特に介護経験者や福祉系学校卒業生）の意識を、高齢者自らが主体的に生きることの重要性を示す、あるいは利用者の意欲的な活動により介護度が改善される姿を通して、介護者がその意義を実感できる機会となった。

- ④行政：運営推進会議の参加や地域住民の活動に対する率直な意見を聞くことで、必要以上には介入しないが、適時アドバイスをくれる等、活動を見守り支援してくれる様子が見られるようになった。

今後の課題及び展開

障害者が65歳になると介護保険制度が優先され、障害者授産施設で生き活きと過ごされていた方であっても介護保険制度の対象者となる。また、介護保険制度は介護や社会的支援が必要な人がその尊厳を保持し能力に応じ自立した日常生活を営むことができるために、必要な保健・医療サービスを行うことを目的としている。確かに介護保険制度は様々な事業があり、その中でも個別の支援を行いながら高齢者の生活を支援している。しかし本当に生活の中で日常的に役割を持ち、その役割を果たしつつ一日を過ごし、本人自身が充実感を味わいながら生活できる環境が用意できているのであろうか。

どの様な立場になっても、意欲的に社会の中で生活し続けられる支援をするために、改めて介護保険サービスそのものの検討が必要である。我々が行うこのささやかな事業がそのきっかけとなり、介護保険制度に位置づけられるサービスの中に、例えば高齢者福祉授産施設のような事業が位置づけられ、高齢者の就労支援に繋がることを目標に今後も活動を続けていきたいと考えている。

主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 10名
（職種等：管理者、計画作成担当者、介護士）

